

アウトドア環境教育を通して育む幼児期の生きる力

背景・目的

宮城学院女子大学発達臨床学科では、学生の資質、能力、専門的知識を高めるために、学生参画型の教育プログラムの開発に力を注いでいる。その取り組みの一つとして海外研修を数年にわたって計画した。本研修に至るまで、スウェーデン王立リンショーピング大学と連携し、本学公開講演会やワークショップを企画してきた経緯がある。本研修では、それらを発展させて、学生自らが異文化体験を通して、日本人とは違う価値観やライフスタイルを感じ、自らの価値判断の新しい材料を獲得していくことを目的とした。

スウェーデンは、日本と比較して自然環境の保全に力を注いでおり、OECD（2012）の環境指数においても、日本24位であるのに対して、世界でトップとなっている。このことを踏まえ、アウトドア環境教育において独創的で最先端の研究を行っているスウェーデン王立リンショーピング大学アウトドア環境教育センターの協力のもと、スウェーデン幼児・児童教育分野での海外研修を計画した。

実施内容

研修期間：2013年2月17日（日）から3月1日（金）の13日間。限られた期間で効率的に研修先を訪問しなければならないことを考慮して、西浦（2012）を参考に、プリスクールから小学校、特別支援学校、自然学校、教員養成大学までの教育機関を訪問できるように設定した。

結果及び考察

本研修は、デンマークのコペンハーゲン国際空港から国際電車でスウェーデン入りし、ヘルシンボリ市（自然学校）、ヒルテバルク市（エリアスフリーズ幼小連携校）、ヨーテボリ市（アウトド

ア環境教育推進校ノーレリーズ小学校）、ノルショーピング市（特別支援学校シャープハグス小学校、リンショーピング大学ノルショーピングキャンパス社会福祉学科、アウトドア環境教育センター）、マルメ市（ローレンスボーグ就学前学校）を視察し、コペンハーゲンに戻る周遊コースをとった。宿泊先はユースホテル（STF Vandrarhem）を拠点として、それらの長距離移動は貸切バス、市内の教育施設訪問は路線バスや路面電車などの公共の交通機関を利用した。

本研修では、13日間のスウェーデン幼児・児童教育研修を通して、スウェーデンの教育実践に触れることができた（図1参照）。特に、全ての研修先に共通することは、スウェーデンの教育がPISAとTIMSSの国際学力調査の結果を強く意識し、数学の学力底上げを図ろうとしていたことである。しかも、日本の教育が重視するスキル教育に偏重することなく、動機づけを高める教育方法の検討が行われ、その一つとしてアウトドア環境教育が注目されていたことが理解できた。



図1 学生らは、Noleredsskolanの児童が実際に活動する森に案内され、アウトドア環境教育の研修を受けた。